



大型MCで高速・高精度に加工

加工分野を網羅するネットワークを生かし顧客ニーズに応える

株式会社 カジテック

事業内容と沿革

試作から量産まで ワンストップでサポートする

平成4年、大阪府東大阪市において金属加工業として創業する。その後、平成7年の大阪府門真市への移転に合わせ従業員と機械設備を拡充。マシニングセンター（MC）の活用を中心に、精密機械加工技術を高めることで応用分野を広げてきた。設立当初は大手電子部品メーカー向けに、放熱板の量産品加工を中心として事業を展開していたが、現在の事業は中国・大連に置く工場に移管している。

さらに平成30年11月の完成を目指し、現在、ベトナム・ハノイに工場を建設中。中国・大連工場でコストメリットの少ない製品の製造を、このベトナム工場に移管することで、より細かな顧客ニーズへの対応を図る考えだ。

こうした量産品の加工に加え、試作加工にも力を注いでいた同社であるが、近年は試作加工の価格競争が激しく、利益率が低下したため、約4年前から製造原価管理をさらに厳しく精査。販売管理ソフトのカスタマイズや、現場作業者の日報を改良するなど、精度の高いデータを蓄積。これらを活用してきっちりと利益の出せる収益構造を確立している。

これらの取り組みで、マシニング・5軸加工や金型・樹脂成形加工、板金加工などの他、押し出し材や切断材など多様な材料までスピーディーに提供できる体制を整えている。

強み

充実した設備と 厳しい管理体制で迅速に対応

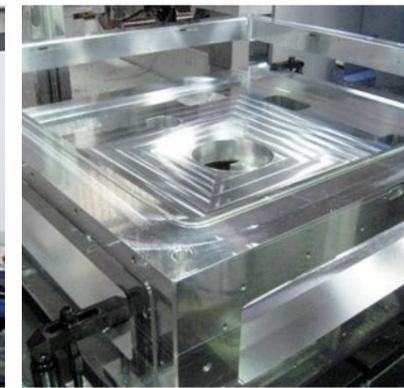
豊富にそろえるMCのほか、CNC（コンピュータ数値制御）旋盤やワイヤカット放電加工機、NC（数値制御）フライス盤や平面研削機、3次元測定器などの充実した設備を誇る。これらの設備を生かし、設備関連の架台やタービンのケースなど最大長さ4m程度の部品から、微細な部品まで多様な加工を可能としている。最近では複合加工機も導入し、工法最適化の提案にも注力。あらゆる加工にワンストップで対応するという企業方針を具現化している。

これらの取り組みにより品質管理や納期管理の徹底、コスト削減を図っている。加えて、約4年前から製造原価管理の見直しも徹底。ひと月で平均600件程度の受注がある中、これまでは200件程度が赤字案件であったが、この製造原価の見直しにより赤字案件を50—60件程度に低減。利益改善に大きく貢献した。

「ものづくりで『できない』と言わない」を理念とする同社の強みは、多品種小ロット、短納期対応。協力業者が力を合わせるネットワークを武器に、多様な顧客ニーズに迅速に対応している。また、品質マネジメントシステム「ISO9001」、環境マネジメントシステム「ISO14001」も取得。



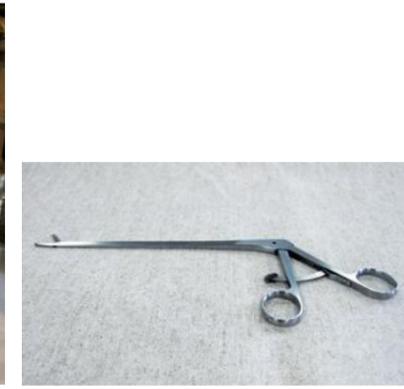
複合加工機も導入



チャンバー



発電機のタービン



自社開発の鉗子（かんし）で医療分野を開拓

- 企画・提案
- 試作・受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- 海外対応

自慢の生産設備と提案力で 製品開発をトータルサポートする



代表取締役
梶原 吉彦さん

マシニングセンター（MC）を中心とする充実した設備と、協力企業との幅広いネットワークを活用し、多様な加工にワンストップで対応できるのが自慢です。試作から量産まで一貫した生産体制を構築しています。特に量産品については、主に中国の工場に対応し、生産ボリュームとコストメリットを追求しています。一方、試作開発についてはVA（価値分析）・VE（価値工学）提案を行い、顧客満足度を高めています。このような強みを生かし、幅広い分野の製品開発をトータルでサポート。新たな技術を目指しています。

主な事業内容
マシニングセンター（MC）を中心に活用した幅広い精密機械加工
主な取引先（納入先）
電気・電子部品、エネルギー半導体、医療機器メーカーなど

【住 所】〒571-0017 大阪府門真市四宮3-8-43
【TEL】072-883-1596
【FAX】072-881-9600
【創 業】平成4年3月 【設 立】平成4年3月
【資本金】1,400万円 【従業員】42名

カドマイスターの取り組み

OJTを軸に人材教育と 技術継承に力を入れる

近年、中堅・中小企業の人手不足が大きな問題となっている。好景気を背景とする「売り手市場」では、多くの学生は大手企業に焦点を絞るのが必然だろう。同社では高等学校へのこまめな訪問、また人材紹介会社や各種媒体を活用した人材確保を進めている。

技術継承については最長で75歳まで雇用を延長し、熟練技術者がマン・ツー・マンでスムーズに技術を伝承できるように体制を整えている。

従業員の技能・意識を高める 人材育成に取り組む

人材の育成について、新人には年間の教育計画のもと、図面の見方から材料特性、また使用する工具など基礎部分については集合教育を実施し、実技指導はOJTを中心とした教育を進めている。

一方、機械設備の操作技術を一定習得した従業員については、マシニングセンター作業の1級、2級など技能検定の取得をバックアップ。合格した従業員には報償を与えるなど、従業員のスキルアップへの意識向上を図っている。製品開発や製造、納期対応など、あらゆる人材育成に取り組んでいる。

今後の展開

先端分野での技術と オリジナル製品で需要拡大を狙う

難削材の加工技術向上に力を入れて取り組んでいる。具体的には燃料電池の部品に関わる加工であるが、耐熱性や耐食性に強いハステロイなど、堅い材料を精度よく加工できるよう技術向上を進めている。約3年前から刃物や治具、切削油の最適化を行い、経験を積み重ねてきた。このような取り組みで、ここ最近ではロボット部品の加工の引き合いが増えている。また現在、航空宇宙産業における品質マネジメントシステム「JISQ9100」の認証取得を申請中。今後さらなる成長が見込める先端分野向けの加工で、需要拡大を狙う考えである。

その他、医療機器分野向けオリジナル製品の開発・製造にも取り組んでいる。グループ会社のカジテック・メディカルで進める事業で、すでに大阪府より医療機器製造業および第3種医療機器製造販売業（一般医療機器）の許可を得ており、鉗子と呼ばれる手術器具の製品化に拍車をかける。オリジナル製品である鉗子を皮切りに、新たな市場で知名度とブランド力を高めていく考えだ。

<http://www.kajitech.co.jp/>

